

樹木診断会などで質問を受けた内容などをまとめました。ご参考にしていただければ幸いです。

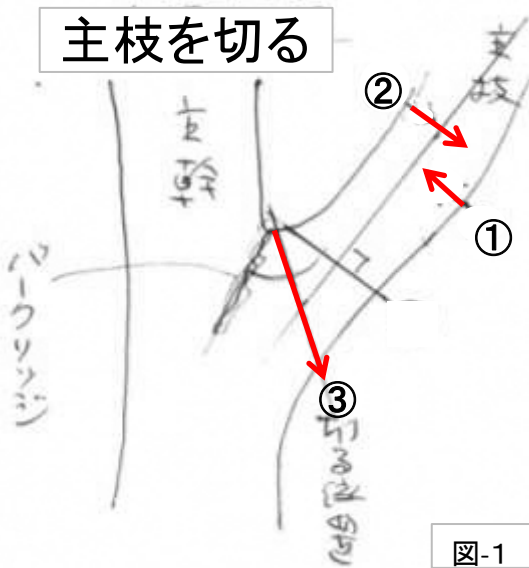
質問	回答
剪定用具	三種の神器ではないが、枝切りのこぎり、剪定鋏、木鋏(塗布剤)
剪定の時期	落葉樹と針葉樹は冬期、常緑樹は春、秋の彼岸前後と梅雨時
大木の強剪定	業者に依頼、安全性と樹木の生理上面からの冬休みの作業
切り口の塗布剤	トップジンMペースト、墨汁、木工用ボンド、ペンキ、柿渋等
果樹の剪定時期	一般的にビワは9月、他は1月か2月、2月か3月、ただし常緑樹性果樹は3月
ビワの剪定	主幹を切除盃状「せつじょはいじょう」、枝を45度以下に下げる、2月花折り摘果
柑橘類の剪定	基本は間引き剪定にて木漏れ日が樹下に届くように透かす
ウメの剪定	鑑賞梅と実梅「みうめ」では異なるが不要枝の切除と短果枝を残す剪定
キウイの剪定	必要な枝を棚に結束して、不要な枝は除去する感じに仕上げる
桜の縮小剪定	櫻切る馬鹿梅・・・は語呂合わせ、冬季に切除可能、殺菌塗布剤する
ヤマボウシの剪定	11月～3月で、純正花芽なので花芽(ふくら)を残して剪定
松槇の造形樹剪定	玉物の集合体なので、それぞれ形の基本形(半球)に刈り込む
枝を切るとまた出る	減った葉の補充のための再萌芽「さいぼうが」で正常(別途説明)
乱雑な再萌芽防止	途中で切るときも斜め切り、通常は枝の付け根で切る
貝塚伊吹の鬼葉「おにば」	ビャクシンの変種強く切ると先祖の葉がでてくるが回復
ヒコバエを出さない方法	性質もあり、良い生育環境とする(別途説明)
藤花を咲かせる方法	総合的管理に尽きるが、短果枝づくり(新梢剪定)
ヒマラヤシーダの剪定	美しい形は広円錐形「こうえんすいけい」だが剪定は下枝を残し多下垂形「たかすいけい」
コニファー剪定後の枯れ	針葉樹には潜伏芽「せんぷくが」が少ないので葉がないところで切ると枯れる
剪定と塗布剤	樹液の流出や腐朽菌「ふきゅうきん」の侵入防止に小指大の側枝以上に塗る
樹の洞(ほら)	昔は充填していたが弊害があり、解放し自然に防御帯をつくらせる
入学式頃の花木	配布の花木の剪定での開花期参照、ソメイヨシノが一般的
高木伐採の注意事項	側枝、垂主枝「あしゅし」、主枝、幹と上から順次切下げてくれば安全
大木類の残根の処理	碁盤目状にチェーンソーで切り込む、スタンプアウト
ニセカシア	侵略的外来種、伐採後切株には除草剤の塗布および被覆を行う
台風倒木防止策	樹木は自ら強風対策をしている、人為的には透かし剪定
倒木の危険度	根株腐朽による、調べるには力強く押すことで判断が可能
腐葉土	桜、常緑樹、有害植物は良くない、落葉樹がよい好気性菌で分解
再生土づくり	水を含ませて黒ビニールに入れ、夏の日差しでの煮沸「しゃふつ」消毒
ソテツの子株	衰弱株から出る不定芽、鋭利な刃物で削ぎ取る、殖やせる
販売店の樹木の移植	良い根の状態なので販売しているときは移植が可能
校内の樹木の植え替え	事前に根を切り一夏経過させた後に移植(実習)
ツバキ科の毛虫	早期発見枝葉の切除焼却、薬剤処理でも死がいの毛による被害あり(注意)
カイガラムシの防除	6月頃は汎用性殺虫剤、他期はマシン系殺虫剤を使用(カイガラムシスプレー)
ベニカナメモチの病害対策	ゴマ色斑点病、褐色斑点病、疫病などが混在しますが対処法は落ちた葉から胞子を発芽させないために常に掃除する、20℃以上で雨天時胞子が発芽するので、その前に薬剤散布する(予防薬ダニコール等)
農薬の散布液の問題	早朝散布、噴霧させずノズルを絞って水鉄砲のようにして散布する
不結実の原因	日照よりも自家不結実性による、同系統異株を交配樹として植栽するとよい
ヤマボウシの不開花	花芽分化期が夏で、分化期の直近または分化後の剪定が原因
桜の花が咲かなくなる？	夏できた花芽は冬の寒さで目覚め生長を始め春に開花する。温暖化で暖冬が極端になると休眠打破しなくなるか
夾竹桃の有毒性と剪定	樹液煙とも強毒性で死亡事故あり、生徒への告知に迷う 上記に留意、目的如何で方法が異なる、作業は最新の注意が必要
除草剤の有害性	粒剤は木が枯れることがあり説明書をよく読んで正しく使用する
人に無害な除草剤	すべて有害性はあるが説明書をよく読んで正しく使用する
木酢液の効果	農薬でない民間薬でタール等成分が不統一効果に関する正確な統計はない
イチョウの葉の用途	腐葉土には3年以上の期間が必要、お茶とすることもある
葉でわかる樹木625種	信濃毎日新聞社出版局 3,450円
樹皮図鑑	樹皮ハンドブック、文一総合出版 1,260円

中高木の剪定「主枝・主幹の切り方」のポイント

各所の樹木診断会で、「写真-2」のように枝の途中から枯れている木が散見されます。

「図-1」の切り方をすれば、「写真-1」のように自然と切り口がふさがります。

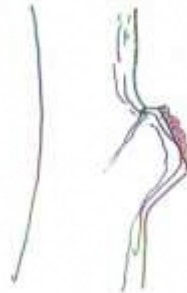
中高木の剪定を業者に依頼するとき、「図-1」の切り方を指示することをおすすめします。



- ① 切る枝の下側に約1/3程度切れ目を入れる
- ② 上から枝を切り落とす
- ③ パークリッジ(バーク「皮」リッジ「山脈」と枝の直角線の間角度で切る
- ④ 切り口に保護剤を塗る

主幹・主枝などは独立採算制であり、切り口は光合成産物により修復します。

↓
修復のための光合成産物の流れ



パークリッジ:
(幹と枝が接している箇所に樹皮が寄り集まったような模様の部分)

要注意:トウネズミモチ 駆除のおすすめ

実を多く付け野鳥により糞と一緒に種子を散布することで、あちこちで繁殖します。生態系に悪影響を与える可能性があるため、「外来生物法で要注意外来生物」に指定されています。幼木の抜き取りや、実を着ける前の剪定などをおすすめします。



←(実) ↑
野鳥によりフェンス際に生えたトウネズミモチ

[トウネズミモチ](#)

国立環境研究所「侵入生物データベース」
↓(クリック)

<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81050.html>